

平成15年度学力向上フロンティア事業中間報告書

都道府県番号	4
都道府県名	宮城県

学力向上推進地域名及び学校数、学力向上フロンティア・スクール数

学力向上推進地域名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
宮城県学力向上推進地域	449校 (19校)	222校 (19校)	671校 (38校)

学力向上推進協議会(地区別協議会)の設置数及び域内の学校数

地区別協議会名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
大河原地区協議会 (白石市, 角田市, 蔵王町, 七ヶ宿町, 大河原町, 村田町, 柴田町, 川崎町, 丸森町)	55校 (2校)	28校 (2校)	83校 (4校)
仙台地区協議会 (塩竈市, 名取市, 多賀城市, 岩沼市, 亘理町, 山元町, 松島町, 七ヶ浜町, 利府町, 大和町, 大郷町, 富谷町, 大衡村)	71校 (2校)	42校 (3校)	113校 (5校)
古川地区協議会 (古川市, 加美町, 色麻町, 松山町, 三本木町, 鹿島台町, 岩出山町, 鳴子町, 涌谷町, 田尻町, 小牛田町, 南郷町)	55校 (2校)	21校 (2校)	76校 (4校)
築館地区協議会 (築館町, 若柳町, 栗駒町, 高清水町, 一迫町, 瀬峰町, 鶯沢町, 金成町, 志波姫町, 花山村)	29校 (2校)	10校 (2校)	39校 (4校)
迫地区協議会 (迫町, 登米町, 東和町, 中田町, 豊里町, 米山町, 石越町, 南方町)	28校 (3校)	9校 (2校)	37校 (5校)
石巻地区協議会 (石巻市, 河北町, 矢本町, 雄勝町, 河南町, 桃生町, 鳴瀬町, 北上町, 女川町, 牡鹿町)	58校 (2校)	31校 (2校)	89校 (4校)

志津川地区協議会 (気仙沼市, 志津川町, 津山町, 本吉町, 唐桑町, 歌津町)	31校 (2校)	18校 (2校)	49校 (4校)
仙台市地区協議会 (仙台市)	122校 (4校)	63校 (4校)	185校 (8校)

都道府県教育委員会としての支援策

(1) 地区協議会及び各フロンティアスクールへの支援

県学力向上フロンティアスクール協議会の開催。

全フロンティアスクールの研究担当, 事務担当者及び各地区協議会の運営担当者が参加して, 平成15年度の事業の進め方等について共通理解を図った。その際, 全国協議会の内容を参加者に周知した。

地区協議会への情報の提供

各フロンティアスクールの取組の概況を取りまとめ, 全地区協議会に情報を提供することにより, 地区協議会での協議の活性化を促した。

(2) 域内の小・中学校に対して

学習指導, 学習評価, 各教科の指導の方針と重点をまとめた冊子を全校に配布

個に応じた指導の事例集(基礎・基本編, 発展的学習編), 学習評価資料等を作成し, 全校に配布

(3) 実践研究の成果の普及の方策の構築

公開研究会による成果の普及

地区協議会におけるフロンティア・スクールの事例発表による普及

各種研修会, 教科研究会における事例発表による普及

中間報告書の印刷・製本・配布及びホームページによる各学校の取組状況, 特色ある取組等の公開

学力把握のための都道府県としての取組について

全県的に学習状況調査を実施

1 調査対象学年、教科

平成14年度 小学校 5年(国語, 算数), 中学校 2年(数学, 英語)

平成15年度 小学校 5年(国語, 算数), 中学校 2年(国語, 数学, 英語)

2 調査の時期、人数

平成14年度 H14 11月 全児童生徒数の約10%を抽出

平成15年度 H15 11月 全自動生徒数の約20%を抽出

3 調査結果及びその活用

問題ごとの通過率から全県の学習状況の定着度を分析。分析結果を全学校に配布。

また, 概要版をホームページに掲載(<http://www.pref.miyagi.jp/gikyou/>)

学力向上推進協議会について

(1) 時期及び参加者

第1回 平成15年10月23日(水)

学識経験者(大学教授), 教育事務所長, 教育研修センター指導主事, フロンティア校校長代表, フロンティアティーチャー代表, 高等学校長, 一般県民, フロンティアハイスクール担当指導主事, 義務教育課長

第2回 平成16年 2月 6日(金)

学識経験者(大学教授), 教育事務所長, 教育研修センター指導主事, フロンティア校校長代表, フロンティアティーチャー代表, 一般県民, 知事部局代表者, 義務教育課長

(2) 協議会の概要

第1回

(協議事項) 協議事項の確認, 各フロンティアスクールの取組について, 学力の把握と学力向上諸策について

(協議会の概要・提言)

「個に応じた指導」については, 一定水準に達していない児童生徒に補充的な指導を行って引き上げ, 水準に達している児童生徒にはさらに伸ばしてやるという二つの方向をしっかりと押さえての指導が必要である。

「確かな学力」は「トータルでバランスのとれた学力」という視点で研究が必要。つまりきの対症療法にするのではなく, 学力向上を基点とした学校づくりという観点が大切である。

地区協議会を実効性のある組織にしていくための方策, 教育研修センターの関わり, フロンティアティーチャーの生かし方を研究していく必要がある。

第2回

(協議事項) 各フロンティアスクール, 地区協議会の取組について, 今年度の成果の普及について

(協議会の概要・提言)

女川町のように町全体としての学力向上の取組が必要。指定校のみの取組では普及は図れない。町全体でワークショップを行うなど, 見学ではなく参加型の公開研究会は意義ある取組。

米川小学校の取組は視点1～視点3(指導法の改善, 教材開発, 評価の改善)を示した上で, 視点4「学習環境の改善」を示した取組をしているところが良い。学力向上には特定教科の指導だけではなく学習習慣の形成や学校全体での環境作りが必要である。

全般的に子供たちの「書く力」が落ちている。ノート指導の重要性が増している。

地区協議会を拡大し, 地区内の全小中学校の研究主任が参加する拡大地区協議会(築館地区)のような取組を推進していくことが必要。

平成16年度で事業が終了した後の展望を次年度の課題として引き継いで欲しい。

実施計画書において示した「事業評価の実施方法・内容」とその進捗状況

事業評価の実施方法・内容

(1) 宮城県学力向上推進協議会の開催による実践研究の指導・支援

(2) 地区学力向上推進協議会の開催による実践研究の指導・支援

- (3) 教育事務所指導主事等の訪問指導による実践研究の指導・支援
- (4) 教育課程研究協議会及び各種研修会での研究成果の発表
- (5) 「個に応じた学習指導資料」への実践事例の掲載による公表
- (6) 各指定校の基礎学力向上策を支援する教員の配置

進捗状況（成果及び課題等）

- (1) 県推進協議会では一般県民,高等学校長,フロンティアハイスクール担当者等を新たに加え,小・中・高一貫した学力向上支援策について検討を行い,提言をいただいた。教育研修センターや地区協議会と一層の連携を図ることが次年度の課題である。
- (2) フロンティアティーチャー,学校長のほか,保護者代表や管内全校の研究主任者を招集して拡大協議会を開催するなど,地区によっての特色ある取組が見られた。
- (3) 各教育事務所が管内のフロンティアスクールに2回以上の研究指定訪問を行い,実践の評価と指導を行っている。また,公開研究会においては研究の成果の検証と今後の研究の在り方について指導・講評を行っている。
- (4) 教育課程研究協議会や教科研究会,教育研修センターの研修事業などにフロンティアスクールの実践が話題提供され,取組状況が県内の教員に広く周知されている。一方,保護者や一般県民には学校での取組状況等の周知がまだ不十分な面もみられることから,普及についてさらに充実していくことが課題である。
- (5) 各フロンティアスクールに少人数指導,チームティーチングのための教員の配置強化が行われており,研究の中心として,また,普及活動に取り組むことが可能な体制になっている。

【地区別協議会における支援策及び普及策】

- (1) 地区推進協議会にフロンティアスクールのPTA会長を構成員として加えることにより,保護者の立場から事業の取組や成果の普及について意見・要望を聴取するとともに,公開研究会を参観するなどフロンティア事業に積極的にかかわり,地域への普及に貢献している。(大河原地区)
- (2) 地区推進協議会に管内全校の研究主任を対象とした研修会を位置付け,フロンティアスクールの成果の普及を行っている。(築館地区)